
老年保健看護

砂川 ゆかり

教育及び実践の課題

老年保健看護の講義・演習では、高齢者には強みがあり、高齢者の強みを見つけ引き出し課題解決に活かしていくことを伝えている。そして、実際に学生は、実習の場において高齢者の強みを生かした実践に取り組んでいる。

本論では、ケアの担い手がケアリングを維持するためにエンパワーメントを必要とし、ケアの担い手へのケアリングから始める必要性を述べている。つまり、実習の場において、学生に、より高齢者の強みを活かした実習を経験させるためには、ケアの担い手となる学生をエンパワーメントしなければならない。それができる教員自身のケアリング力を向上させることが課題であると考えた。

活用した論文の概要

本論文の研究目的は、さまざまなバックグラウンドを持つ看護師の現代の臨床環境におけるケアリングの認識を探ることであった。その結果、看護師のケアリングの認識は、相互関係に従事すること (engaging in reciprocal relationships)、ケアリングの本質を受け入れること (embracing the essence of caring)、ケアリングの実例を生み出すこと (engendering instances of caring)、実際にケアリングを体現すること (embodying caring in practice) であった。

看護師はケアリングを維持するためにエンパワーメントを必要とすることが明らかになった。現代の臨床環境でのケアリングに対する看護師の情熱を活性化するためには、ケアの担い手のケアリングから始めるべきである。

教育及び実践への活用

教員がケアリング力を高めるためには、教員自身が、臨床現場におけるケアとつながり続ける必要があると考える。ケアリング力は、机上で学ぶだけでなく、臨床現場でよいケアに触れ、また、高齢者にケアを行い、自らの実践をケアリングの視点で振り返り、改善点を探ることで向上すると考える。そのため、臨床現場の看護職のよい実践を聞く、協働して看護過程を展開する機会を作っている。また、ケアリングは概念の複雑性が指摘されているが、ケアリングとは何か、どのように看護実践に活用できるかについて学びを深めつつ、自らの実践をケアリングの視点で振り返っている。今後は、定期的に研鑽を積むために、研究フィールドとしてではなく、実践力向上 (ケアリング力向上) のための研修フィールドの確保を進めていく。

参考文献

Four Es of caring in contemporary nursing: Exploring novice to experienced nurses, *Nursing Health Sciences*, 21, 85–92, 2019
